

# 血管内治療の具体的な症例

## — 脳底動脈瘤

### 【症状】

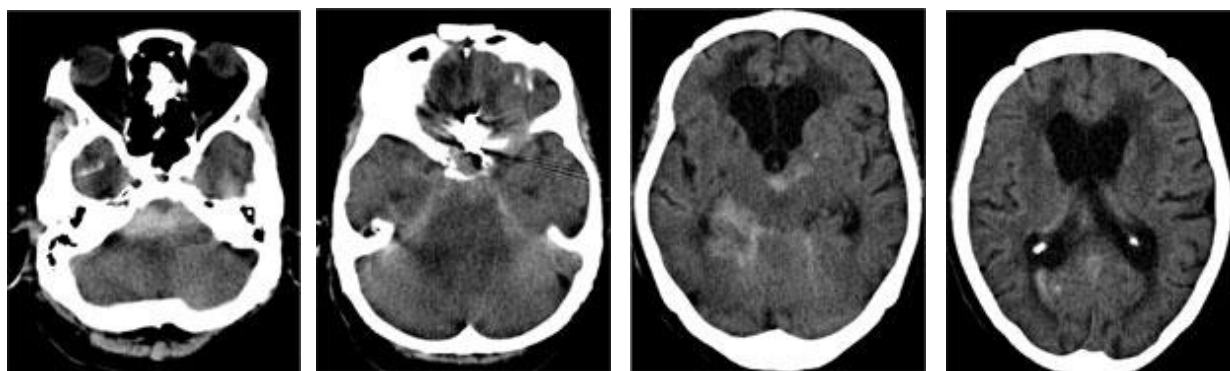
後頸部痛を訴えたのち意識障害認め、救急車で来院されました。

### 【所見・治療】

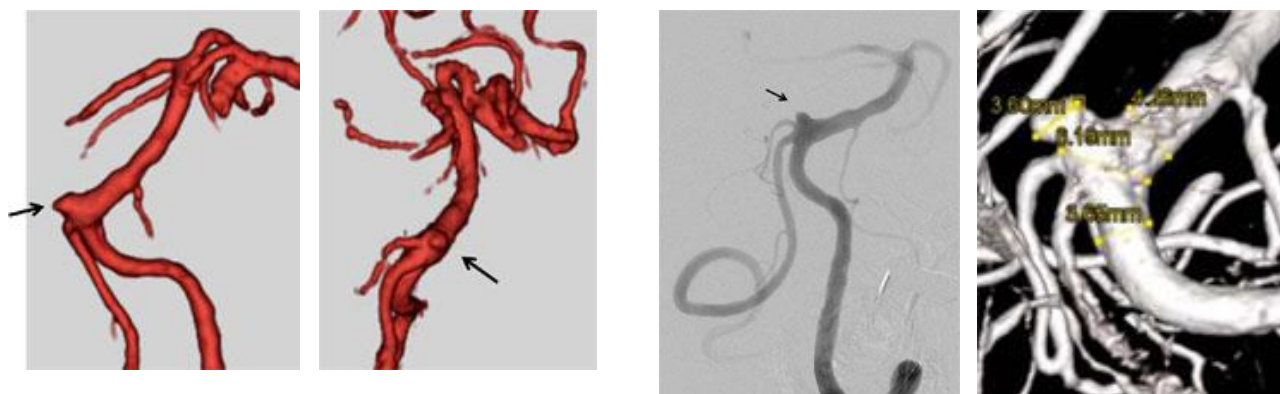
くも膜下出血を認め、脳底動脈に小さな動脈瘤を認めました。開頭術は困難で、シンプルなコイルは不可能であったので、急性期にステント併用コイル塞栓術を施行しました。

### 【既往歴】

約 20 年前に破裂前交通動脈瘤に対し、クリッピング術を実施。

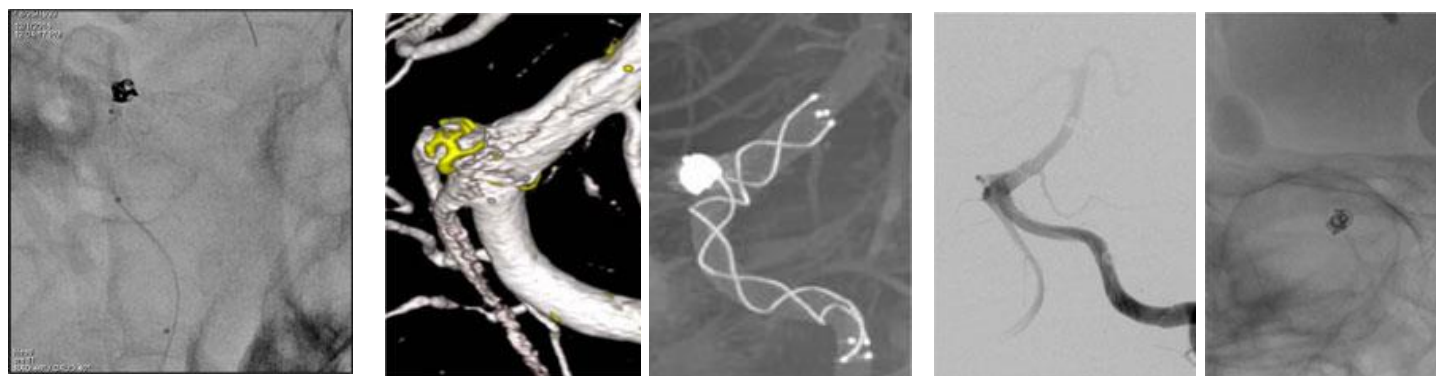


来院時 CT



正面 来院時 MRA 側面

DSA (血管造影)



ステント併用コイル塞栓術

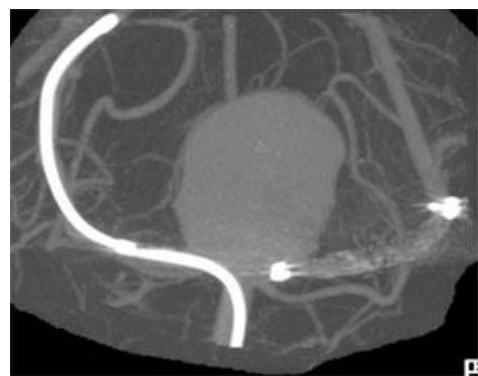
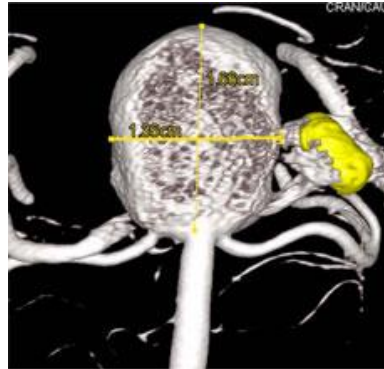
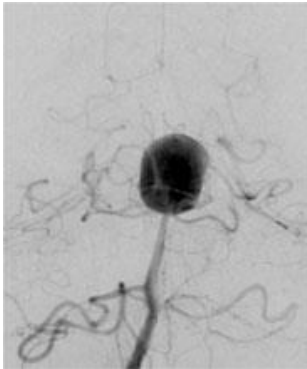
術直後 3D-DSA cone beam CT

術直後 DSA

## — 脳底動脈瘤

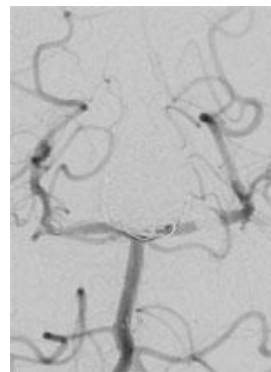
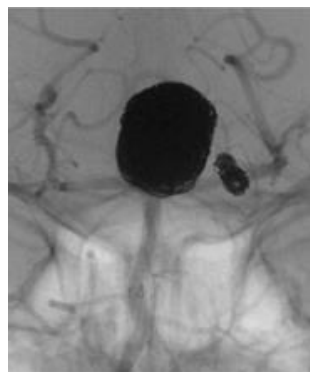
### 【所見・治療】

くも膜下出血を認め、2 個の動脈瘤を認めました。小型動脈瘤は直ちにコイル塞栓術を施行。脳底動脈瘤の大型動脈瘤も併発しており、こちらは T 型に 2 本のステントを併用してコイル塞栓術を施行しました。



脳血管撮影と 3 次元画像

1 本目のステントと 2 本目のステント用カテーテル



術後血管撮影

## — ステント型血栓回収カテーテルによる脳梗塞治療

### 【症状】

四肢麻痺、昏睡状態

### 【所見・治療】

脳梗塞発症直後であったため t-PA を行い、血栓回収療法を実施しました。



術前



術後



血栓回収カテーテル

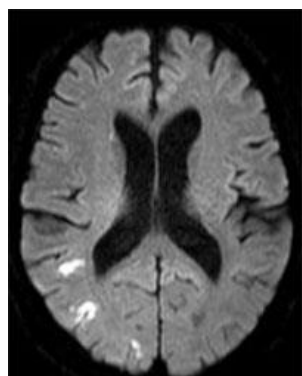
食生活の欧米化により、日本人にも頸部頸動脈狭窄症による脳梗塞も増加しています。従来は頸部を切開する頸動脈内膜剥離術により治療していましたが、2008年4月より血管内治療（頸動脈ステント留置術）が保険収載となりました(下図参照)。2017年4月現在、新しく認可された頸動脈ステント留置術を既に300例経験しています。



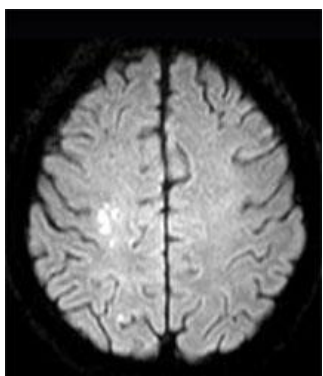
## — 頸動脈ステント留置術

### 【症状】

左片麻痺



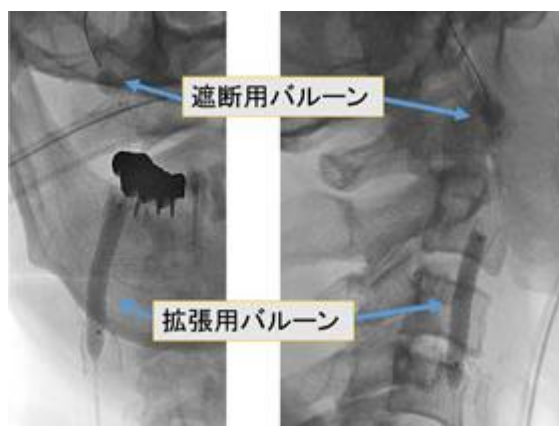
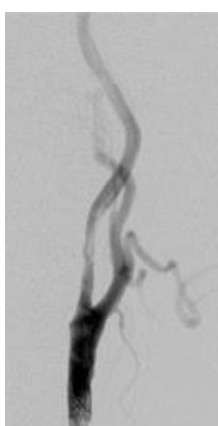
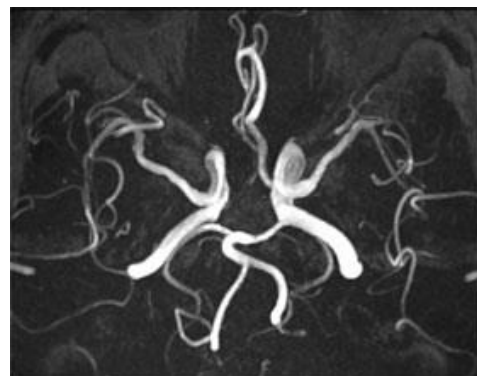
DWI（拡散強調画像）



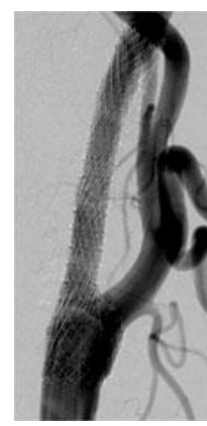
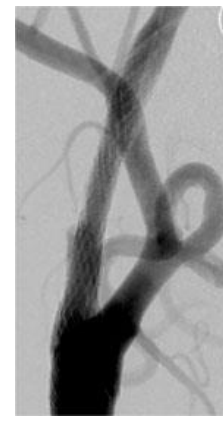
3D-DSA



MRA



CAG



術後 CAG

ステントは2枚重ねて使用

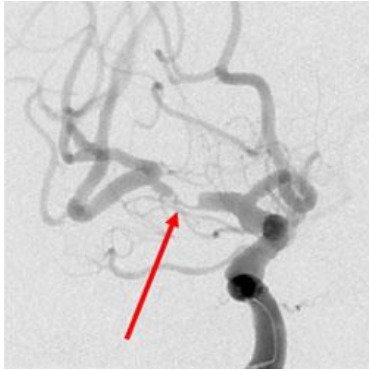
— 頭蓋内脳動脈狭窄症に対する Wing span 自己拡張ステントによる拡張療法

【症状】

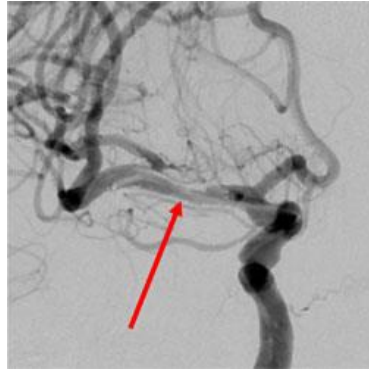
繰り返す左麻痺

【所見・治療】

右中大脳動脈高度狭窄が認められたため、ステントを留置しました。



術前



術後

